

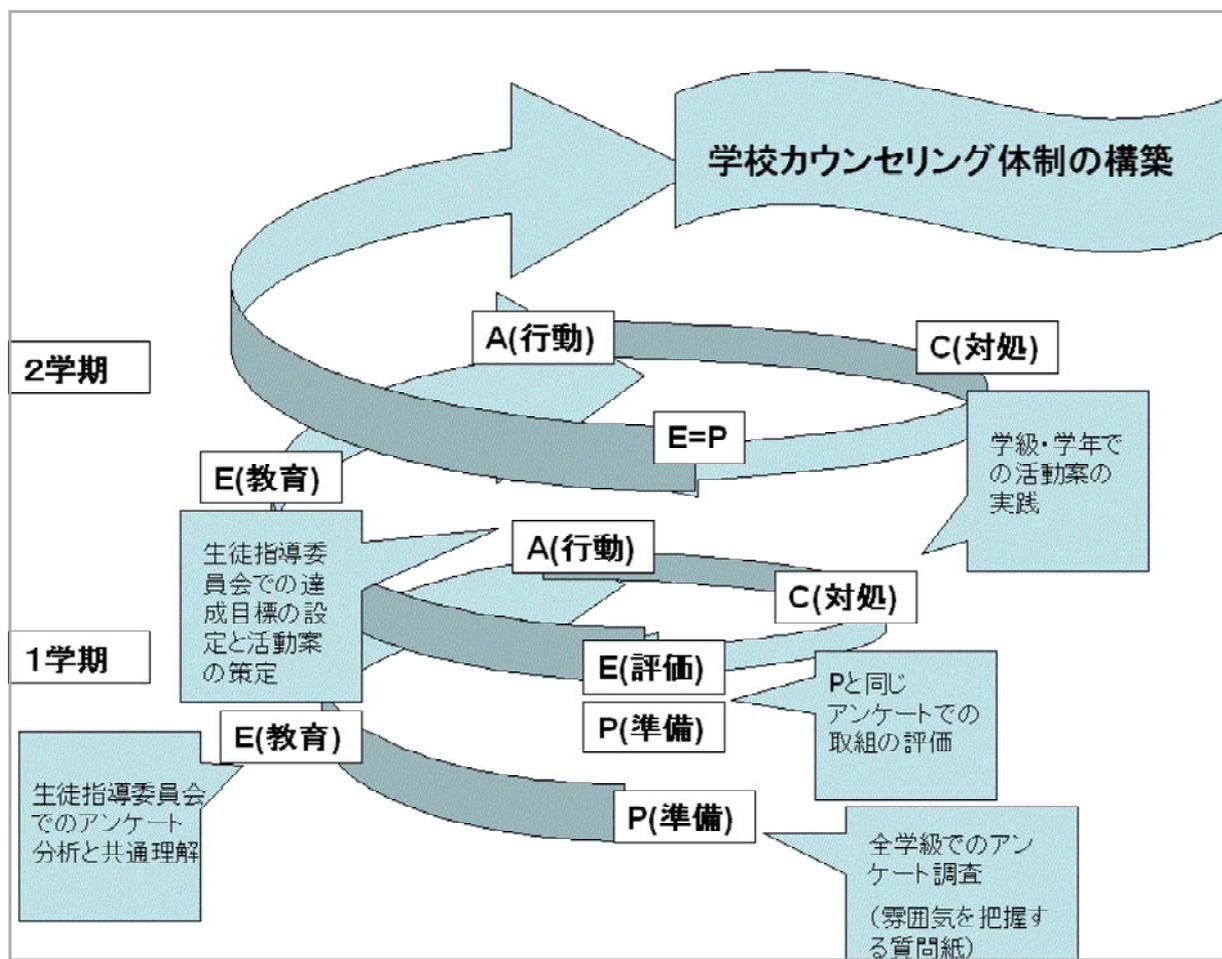
予防・開発的教育相談体制の構築を目指して

沼田市立沼田西中学校 根岸 浩文

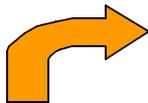


本研究は、ほっとルーム(=生徒指導委員会)を拠点として、各学級・学年の実態を教師の観察からだけでなく「学級の雰囲気把握する質問紙」調査結果から客観的に把握し、職員間で有効な支援の方法を共通理解し合うという以下の円環的なサイクルにより、予防・開発的教育相談を実践し、学校カウンセリング体制を構築しようとする研究です。

○円環的なサイクルによる流れ

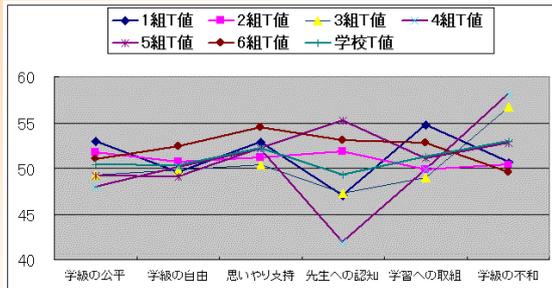


○円環的なサイクルの中の5つのステップ



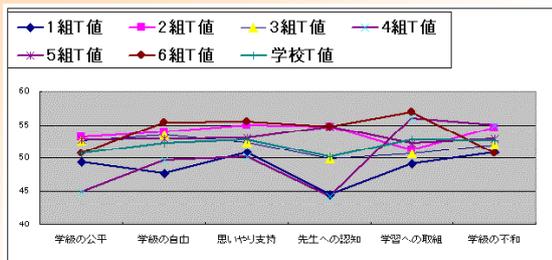
① 雰囲気把握する質問紙調査(第1回)

群馬県総合教育センター「実践ワークブック 不登校問題課題解決支援資料改訂版(2005)」を活用して実態調査を行いました。



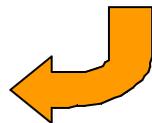
⑤ 雰囲気把握する質問紙調査(第2回)

実態調査と同じ調査を行い、活動の成果を確かめるとともに、次のサイクルの実態把握をし、次のサイクルにつなげます。



④ 活動案の実践

学活の授業で、雰囲気把握する質問紙調査結果の一部を提示し、グループで6組の課題を分析し、改善策を話し合い、シェアリングを行いました。「グラフを見て予想通りの結果だった。話し合いではみんな同じようなことを思っていたので安心した。とにかく変えなくてはいけないと思った。自分をしっかりとつこと。授業をしっかりと受けること。思いやりをもつて接すること。自分で何が正しくて正しくないかを判断する力を身に付けること。友達の中にはまわりを批判する癖がある人もいるので、自分を振り返った方がいい。」という感想がありました。



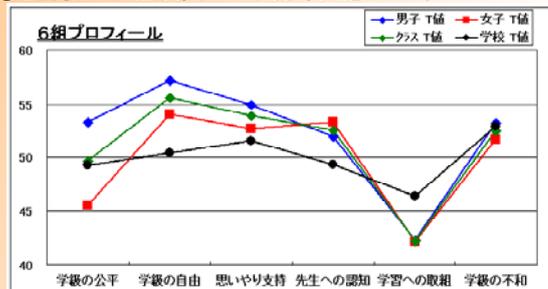
② 生徒指導委員会による分析と共通理解

ex:「『先生への認知』が低いクラスは構成的グループエンカウンター『X先生からの手紙』をやるといいよ。」

ex:「学級通信を発行して、先生や友達の思いや願いを情報発信することで、いい人間関係が築けるんじゃないかな。」

ex:「調査結果の一部をクラスで開示し、みんなでクラスの課題を考えたらどうだろう。」

③ 目標及び活動案の策定(実態から)



「『学級の公平』についての男女差が大きいなあ。これを改善することを目標にしよう！調査結果の詳細を見てみよう。…『みんな平等です』『このクラスには公平な雰囲気があります』といった質問項目で女子の値が低いぞ！たしかに女子の中には自分勝手な行動を取りがちな生徒が何人かいるからなあ。『学習への取組』も悪いなあ。〇〇科の授業では、おしゃべりする生徒がいて担当の先生、困っているからなあ。そのおしゃべりを迷惑に感じている生徒が多いんだなあ。でも、そのことを本人達は自覚しているのかな？今度、チャンス相談をしてみよう。クラス全体でも話し合ってみよう！」

